

## 外国語活動・外国語科授業実践研究部

### I 研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの指導の工夫  
～英語絵本を活用した指導の研究～

### II 研究主題について

1992年度より公立の小学校で英語活動が始まり、2011年度からは「外国語活動」と名称を改め、小学校5, 6年生において週1時間の授業が実施されることとなった。そして新学習指導要領実施に向けて、さらに外国語活動及び外国語科の授業の質を上げていくことが求められている。

そのような現状において、外国語活動の授業を振り返ると、児童は活発に英語のやりとりを行い、英語に慣れ親しんでいるものの、研究主題の「主体的・対話的で深い学び」につながるような授業が行われているとは言い難い現状がある。

本研究部では、外国語活動においても「主体的・対話的で深い学びにつながる授業」を、絵本の読み聞かせを通して実践していくものとする。

### III 研究の内容

#### 1 研究の方向性

先述の通り、外国語活動において、児童が英語に慣れ親しむ効果はあったものの、主体的・対話的で深い学びという視点からはまだまだ改善の余地がある。英語を学び始めて日が浅く、語彙力を含め英語の基礎基本が身に付いていない児童に「深い学び」を実践していくことは非常に困難である。

そこで、本研究部では2年間にわたり、どのような形で児童に「深い学び」のある授業を展開できるか考えてきた。1年目は、絵本、歌、チャンツを取り入れながら授業研究をした。1年間の研究の総括をしていく中で、英語の絵本が最も「深い学び」につながるのではないかと、いう結論に至った。英語の絵本を活用することで、児童は絵や声のトーン、自分の持っている背景知識を使って、自分の英語力以上の内容を理解し、深い学びにつなげていくことができると考えた。

2年目はこの絵本の指導法について、児童にとって主体的・対話的な活動になるように工夫・改善し、児童の深い学びにつなげていけるようにする研究を行った。

## 2 事前・事後アンケート

絵本の指導法を工夫・改善することで児童の深い学びにつながったということが明らかになるように、指導法を工夫・改善する前のアンケートと、その後のアンケートの差を見ていくこととする。

\*アンケートは右の通り

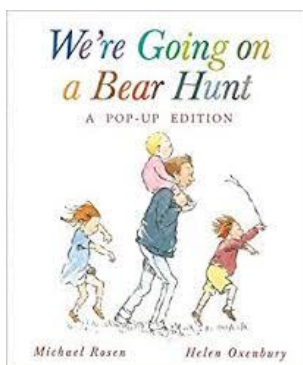
平成30年度 授業アンケート集計用紙	年			
ポイント	4	3	2	1
	とても好き	好き	あまり好きではない	好きではない
1. 英語の授業は好きですか。				
	とても好き	好き	あまり好きではない	好きではない
2. 絵本の時間は好きですか。				
	ほとんど理解できる	少し理解できる	あまり理解できない	全然理解できない
3. 絵本の内容はどれくらい理解できますか。				
	絵から予測する	わかった言葉から予測する	わからない言葉を聞き流す	話の流れについていけなくなる
4. 絵本を聞いていて、わからない言葉があった時どうしていますか。				
	できる	少しできる	あまりできない	全然できない
5. 絵本は最後まで集中して聞き続けることができますか。				

## IV 実践例

主体的・対話的で深い学びにつながるように、指導法について工夫・改善したところを太字で示してある。

### 1 使用した絵本と実施時期

#### (1) 『We're going on a bear hunt』(6月実施)



【絵本の内容】この絵本は、お父さん、3人の子供と赤ちゃん、そして一匹の犬が、勇敢にクマを狩りに野に出かける。そしてこの家族は川を渡り、沼を歩き、真っ暗な森に分け入り、雪嵐にも出会う。次々と展開する場面、その場面合ったユニークな擬態・擬声音、リズム感あふれる言葉運びが、本全体に躍動感を与えている。

#### 【絵本の読み聞かせの方法】

・ **1回目** 最初から最後まで通した読み聞かせ

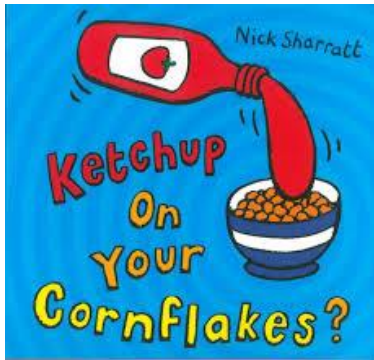
→意味は分かっていない児童が多いが、絵本に興味を示す様子が見られた。絵から、「熊だ！」などの発言もあった。一緒にジェスチャーする児童もいた。

・ **2回目** 「What is bear?」「What is bear hunt?」など問いかけながら、話の大筋を確認。絵から様子を予想させ、一緒にジェスチャーした。

→話のだいたいの内容が分かった児童も多かった。まったく分からないと思われる児童もいる。ジェスチャーは楽しみながら取り組むことができた。

・ **3回目** 前回と同様に、残りの場面も対話しながら読み進めた。3回目ということもあり、繰り返しの部分を一緒に口ずさむ児童もいた。

(2) 『Ketchup on your cornflakes』(7月実施)



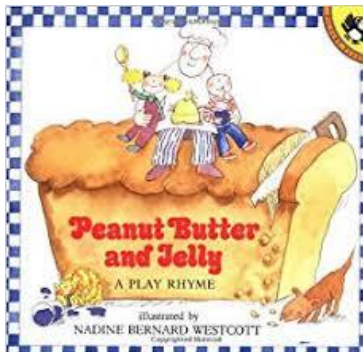
【絵本の内容】 ページの上下が分かれており、別々にめくすることで、描かれている絵のちぐはぐな組み合わせを楽しむ絵本。タイトルにもあるように、ketchup, cornflakes の他、toothpaste, lemonade, milk, chips というような児童の身近にあるものを用いて、幾通りもの組み合わせを考えることができる。Ketchup on your cornflakes, toothpaste in your lemonade, milk on your chips という突拍子もない組み合わせができ上がる。そこ

で Do you like ketchup on your cornflakes? と絵本の左ページに表れた奇妙な質問を児童に投げかける。Do you like ~? という表現、on, in という前置詞、身の回りの名詞に触れることができる。

【絵本の読み聞かせの方法】

- ・ 1回目 Do you like ketchup on ~? と児童に問いかけた。上ページを固定して、下のページを読み進めた。はじめは絵を見せないで児童に次に出てくるものを予想させて答えさせ、その後に絵を見せた。
- ・ 2回目と3回目も同様の読み方をした。

(3) 『Peanut Butter and Jelly』(9月実施)

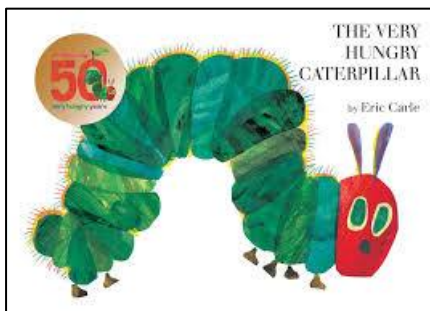


【絵本の内容】 アメリカの子供たちが大好きなピーナツバターとジャムサンドイッチの作り方をチャンツに合わせて読んでいく話である。ジェスチャーをつけてリズムよく、楽しく読み進めることができる。

【絵本の読み聞かせの方法】

⇒研究授業(1)参照

(4) 『THE VERY HUNGRY CATERPILLAR』(10月実施)

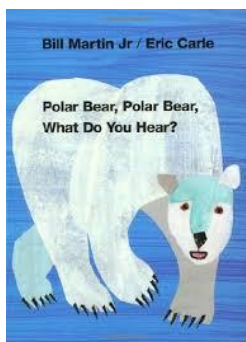


【絵本の内容】 エリック・カールの絵本『はらぺこあおむし』で日本語でもよく読まれている絵本である。生まれたてでおなかがぺこぺこのあおむしは、月曜日にリンゴ1個、火曜日に洋ナシ2個と、どんどん食べ続けてもまだおなかがいっぱいにならない。土曜日にはとんでもないことに……。いろいろな食べ物の名前、曜日と数字が覚えられる。

【絵本の読み聞かせの方法】

⇒研究授業(2)参照

(5) 『Polar Bear, Polar Bear, What Do You Hear?』（1 1月実施）



【絵本の内容】 エリック・カールによって美しく描かれた動物、色彩、音を組み合わせた遊び心のある物語。ちょっとしたボードブック形式で現れる。 シンプルな韻文のテキストは、轟音のライオンからフルートのフラミンゴとトランペットのゾウまで、野生動物の様子を読者に紹介する。

【絵本の読み聞かせの方法】

⇒研究授業(3)参照

2 研究授業

(1) 富岡小学校 畑中 隆行 教諭

9月25日（火）5校時 5年1組 授業者 畑中教諭・蛭川教諭

① 絵本の活用計画 使用する絵本『Peanut Butter and Jelly』

	目標	留意点
1	・絵を見たり、知っている単語からストーリーの内容を予測しながら聞く。 ・対話を通して、次の展開を予測しながら聞く。	・本単元の「What's this?」のキーワードを織り交ぜながら、 <u>対話を通して次の展開を予測させながら</u> 読み聞かせる。 ・話が短いので、場面で区切らずに最後まで読み聞かせる。
2	・慣れ親しんだキーワードを、声に出して一緒に読む。	・「Peanut Butter, Peanut Butter, Jelly, Jelly.」を <u>声に出して一緒に読む</u> ことができるよう、CDのリズムに合わせて読み聞かせる。
3	・慣れ親しんだキーワードを、児童が声に出して読む。	・「Peanut Butter, Peanut Butter, Jelly, Jelly.」や「Slice it, Slice it.」など、児童だけで読むことができるようにする。
4	・ <u>キーワードの言葉を変えて</u> 、児童が声に出して読む。	・「Peanut Butter」を自分の好きなクリームに変えたり、「grapes」等の果物に変えたりして読むことができるようにする。

② 成果

絵本の活用計画では、単元計画に沿って4時間の計画をたてたが、リズムに合わせて読みやすく、くり返し表現される部分「Peanut Butter, Peanut Butter, Jelly, Jelly.」は本時で自然と一緒に読むことができた。また、3時間目で予定していた、児童だけ読む活動も、2時間目で実践することができた。このことから、児童を引き付ける雰囲気づくり、児童に分かりやすいように、リズムをつけてくり返し読み聞かせることなどを意識すれば、自然と表現することができるようになることが分かった。

③ 読み方の工夫

・児童が興味・関心を持って聞けるよう、低学年に行うように、次の展開を予想させたり、

クリアボイス、ジェスチャーに気を付けたりしながら読み聞かせを行った。

- ・ピーナッツバターを作って、サンドウィッチをつくるストーリーだが、馴染みのない表現が出てきた時は、ピーナッツを実際に用意して、何を表現しているのかがイメージしやすいようにジェスチャーを取り入れた。



- ・「What's this?」と本時で学習したキーワードを織り交ぜながら読み聞かせを行った。
- ・絵本自体は小さく、全児童「絵」を見せるのは難しい為、教室の後ろのスペースに児童を集め、読み聞かせを行った。「絵」からストーリーや、次の展開を予想する児童がいる為、「絵」が見えるようにする工夫は必要になると感じた。

(2) 和田小学校 5年 深澤 真奈美 教諭

10月17日(水) 6校時 5年2組 深澤教諭 ・ 諸星外国語支援員

① 絵本の活用計画 使用する絵本『THE VERY HUNGRY CATERPILLAR』

	読み方	目標	指導上の留意点
1	最初から最後まで通して読む。	絵や知っている言葉から、おおまかな内容を理解する。	<u>大切な言葉はゆっくりと読む。</u> 言葉と合わせて <u>絵を指しながら読む。</u>
2	曜日のページをピックアップして読む。	曜日・数・果物の言い方に慣れ親しむ。	・次の曜日を <u>予想させながら読む。</u> ・既習表現の「What's this?」を用いて、何の果物かを <u>児童に尋ねる。</u> ・繰り返し出てくる「But he was still hungry.」の表現を <u>児童も一緒に言えるようにする。</u>
3	食べ物のページをピックアップして読む。	・色々な食べ物の言い方に慣れ親しむ。 ・好きなものの言い方に慣れ親しむ。	・既習表現の「What's this?」を用いて、何の食べ物かを <u>児童に尋ねる。</u> ・既習表現の「What food do you like?」を用いて、好きな食べ物について <u>やり取り</u> をする。
4	最初から最後まで通して読む。	・絵や知っている言葉からおおまかな内容を理解する。 ・2, 3時間目で読み聞かせした内容を一緒に口ずさむ。	・大切な言葉はゆっくりと読む。 ・言葉と合わせて絵を指さしながら読む。

② 成果

- ・本時までに2冊の本の読み聞かせを行ってきたことで、授業の導入での絵本の読み聞かせを楽しみにする児童が多かった。
- ・分からない言葉が出てきても、絵から「～かな？」と推測しながら聞く児童が多くみられた。
- ・リピートするようこちらが促さなくても、読み方の工夫により、自然と繰り返し出てくる表現を真似て一緒に言う児童が多かった。

③ 読み方の工夫

- ・既習表現で質問できる絵本の内容であったので、既習の表現を用いて児童と対話した。→What's this? / What food do you like? など。
- ・絵本に繰り返しある文は、間をあけて読むことで、児童が自然と発音することを促した。→but he was still . . . hungry. (hungry を一緒に言えるようにしたい場合)
- ・読んでいる言葉と、対応している絵を指さしながら読むことで、児童が推測しながら聞くことができるようにした。

(3) 荒幡小学校 5年 道祖土 絢子 教諭

11月27日(火) 6校時 5年1組 道祖土教諭 ・ 西澤教諭

① 絵本の活用計画 使用する絵本『Polar bear, Polar bear, what do you hear?』

	目標	指導上の留意点
1	・ 鳴き声や英語での動物名を聞いて、動物を予想しながら聞くことができる。	・ 教師が鳴き声を真似てみることで、何の動物か予想できるようにする。 ・ 動物の名前は特に <u>ゆっくり読む</u> 。
2	・ 動物の名前や What do you hear?を声に出して一緒に読むことができる。	・ 「What animal?」などと <u>対話しながら読む</u> 。 ・ 「Lion, Lion, what do you hear?」の部分を声に出して <u>一緒に読む</u> ことができるようゆっくり読む。
3	・ I hear ~ in my ear.の部分を声に出して一緒に読むことができる。	・ roaring などの英語の部分は実際の動物の鳴き声を真似て言ってみる。 ・ I hear children roaring like a lion 等の部分につなげる。
4	・ 一緒にフレーズを声を出して読むことができる。	・ 「What do you hear?」「I hear ~ in my ear.」を <u>役割を変えて言ってみる</u> 。

② 成果

- ・今回新しい本を導入したが、「新しい絵本だ」という児童のつぶやきもあり、絵本の時間を楽しみにしている児童の様子が多く見受けられた。
- ・実際の動物の鳴き声を聞かせたことで、絵本への興味・関心が高まった。英語が分からなくても、今回は鳴き声から予測することができ、動物を予測し、楽しみながら聞く児童が多かった。

### ③ 読み方の工夫

・始めに動物が出てきた部分で動物の名前を教え、「Polar bear, Polar bear, what do you hear?」の部分を一括に口ずさめるようにした。

・Polar bear, Polar bear, what do you hear? I hear a lion roaring in my ear.という一連の流れが、動物の名前と鳴き方（.....部）を変えて進んでいく物語なので、動物の名前を言う前に、実際の鳴き声を聞かせて動物の名前を予測させた。

・動物の名前はゆっくり読むことで、動物を予測しやすいようにした。

・動物の名前を言っている時は、その動物を指さしたり、「What do you hear?」では耳に手を当てたりするジェスチャーを取り入れた。



## V まとめと課題

### 1 事前・事後アンケートの結果

事前テスト（6月中旬実施）と事後テスト（11月下旬実施）を実施し、その結果は以下のようになっている。 \*（ ）は事前テスト結果

(1) 英語の授業は好きですか。

	とても好き	好き	あまり好きではない	好きではない
富岡小学校	9 (9)	12 (10)	3 (5)	1 (1)
和田小学校	11 (13)	14 (14)	6 (4)	3 (2)
荒幡小学校	8 (14)	14 (11)	7 (3)	2 (2)

(2) 絵本の時間は好きですか。

	とても好き	好き	あまり好きではない	好きではない
富岡小学校	12 (9)	12 (11)	1 (5)	0 (0)
和田小学校	15 (14)	12 (14)	4 (4)	2 (1)
荒幡小学校	11 (5)	13 (14)	6 (5)	1 (6)

(3) 絵本の内容はどれくらい理解できますか。

	ほとんど理解できる	少し理解できる	あまり理解できない	全然理解できない
富岡小学校	3 (3)	18 (14)	4 (6)	0 (2)
和田小学校	12 (5)	11 (10)	7 (10)	4 (8)
荒幡小学校	7 (1)	14 (12)	8 (7)	2 (10)

(4) 絵本を聞いていて、分からない言葉があったときどうしていますか。

	絵から予測	分かった言葉から予測	聞き流す	話の流れについていけなくなる
富岡小学校	17 (15)	7 (6)	1 (3)	0 (1)
和田小学校	18 (17)	12 (8)	3 (6)	0 (2)
荒幡小学校	20 (16)	20 (15)	8 (16)	2 (5)

(5) 絵本は最後まで集中して聞き続けることができますか。

	できる	少しできる	あまりできない	全然できない
富岡小学校	16 (13)	7 (9)	2 (3)	0 (0)
和田小学校	18 (20)	14 (9)	0 (2)	2 (2)
荒幡小学校	16 (15)	9 (7)	6 (7)	0 (1)

## 2 事前事後アンケートからの考察

主体的・対話的な学びにつながるように工夫・改善した絵本の指導により、「3 絵本の内容はどれくらい理解できますか」という項目に現れている児童の理解度がかなり上がった学校があった。また、「4 絵本を聞いていて、分からない言葉があったときどうしていますか」という質問に対しても、「聞き流す」、「話の流れについていけなくなる」、という児童が減り、絵やわかった言葉から予測すると答えた児童が増えた。「5 絵本は最後まで集中して聞き続けることができますか」という質問にも「できる」、「すこしできる」と前向きな答えを出した児童が増えたことがわかる。

現行外国語指導要領における外国語活動の中では、児童たちは単語や短い文レベルの英語の対話しか経験がない。児童にとって、まとまりのある英文を集中力を切らさずに聞き続けることは非常に難しいことである。しかし、今回の研究のように、児童が主体的・対話的に絵本の活動に取り組むことで、その内容を、絵や他の知っている言葉、教師とのやり取りを手がかりに、予測しながら理解している様子がわかる。外国語を学ぶ上で、この「分からない言葉があっても予測しながら聞き続ける力」というのは非常に重要な力となる。そして児童が理解した内容は、普段の英語活動では得られない、言語的にも文化的にも深い学びになっている。

また、「2 絵本の時間は好きですか」の質問に対しては、事前事後の差は出なかったものの、どの児童も絵本の時間を楽しんでいる現状がわかる。

今回の研究からわかる通り、児童の興味関心が強い絵本を使い、児童の主体的・対話的な活動につながるように指導の工夫をすることで、たくさんの豊かな英語に触れ、深い学びに導くことができる。



### 3 課題

たくさんの方の良さがあつた英語絵本だが、一方で課題もある。(課題は太字)

#### (1) 英語で読み聞かせることに苦手意識を持つ小学校の教師が多い。

この点に関しては、畑中教諭から「付属で CD のついているものであればやりやすかつた。」というような現場の教師の感想を参考としたい。絵本の中には、このような CD 付きのものも多く、担任の先生が事前に練習をすることもできる。ただ、実際には児童の様子を見ながら英語をゆっくり発話したり、止めたりということが必要になるため、担任の教師の肉声で読み上げることが望ましい。

#### (2) 必ずしも単元と絵本の内容が合致するわけではないので扱いに困つた。

『Let's Try!』, 『We can!』, 『Hi, friends!』を軸に英語の授業を進めていくときに、行つている単元と絵本の内容が合っていないという点が課題としてあがつた。しかし、研究のテーマでもあつたように、絵本の大きな狙いを「まとまつた量の英文を、予測しながら聞き続ける力」や「児童の興味・関心を高める」としているのだから、行つている単元と合っていないでも気にする必要はないと考える。むしろ繰り返しの指導の視点から、既習でも未習でも、指導の工夫をしながら指導していくことが大切である。

#### (3) 絵本を使って児童に、何をどのレベルまで達成させればいいのかの目標地点がわかりづらい。

この点に関しては、議論の余地がたくさん残されていると思うが、絵本の読み聞かせでは、児童に「まとまつた量の英文を、意味を類推させながら聞き続ける力」や「児童の興味・関心を高める」点にねらいを置いており、絵本の読み聞かせを通して、児童に身に付けさせたい力は、数値で判断するのは難しい。しかし、もし児童の変容を確認したいのであれば、今回の研究で使用したようなアンケートや、児童の自己評価を見ていくことができる。

#### (4) 絵が見えにくい場合がある。児童は絵を見て予測するので工夫が必要。

児童へのアンケートの中でも、「分からない言葉の手がかりを絵とする」と答えた児童がたくさんいた。そのため、児童にとって絵がよく見えないというのは絵本の活動では致命的である。空いているスペースで小さな輪をつくり絵本を読んだり、それでも絵が見えない場合は ICT 機器を使つたりなどの工夫が必要である。

#### (5) 絵本の英文だけでなく、英語での補助発問を増やす工夫が必要。

今回の研究でも明らかになつたように、児童との対話を通して絵本を読み進めることが児童の内容理解に大きく貢献をした。この補助発問に関しては、絵本の中に書かれているわけではないので、教師の工夫が求められる。この補助発問こそが絵本の成功のカギともいえる。

#### 4 おわりに

英語絵本を活用した指導を継続して行うことで児童が得ることはたくさんある。言語習得の立場から佐藤（2010）は

- ・内容を推測しながら理解できる。
- ・英語独特のリズムを身に付ける。
- ・文脈の中で、自然に単語を増やせる。
- ・絵本は繰り返しの表現が多いので、自然に文に触れ、声に出して言える。

ということを挙げている。また、発達の媒介として、内容理解の立場から

- ・子供の情緒発達を促す。
- ・異文化理解に役立つ。

ということも挙げている。

また、絵本の読み聞かせの意義として、湯川（2009）は、

- ・楽しくて、構文や単語レベルを超えたまとまりのある談話に慣れることができる。
- ・母語で培った能力の活用
- ・将来的に読みへとつなげることが可能
- ・低学年から高学年までの知的好奇心を満たすことができる。
- ・本時の新学習事項へつなげる絵本、物語を楽しむ絵本、内容を考えさせる絵本、繰り返しを楽しんで音読できる絵本、文字読みが始まる本など多種多様

と、述べている。

今回の事前・事後アンケート結果でも分かるが、絵本の活用ではすぐに児童の変容が見られるわけではない。しかし、小学校3年生から中学校3年生までの7年間の英語教育を考えたときに、絵本の活用はその下地になるものだと考える。

絵本の読み聞かせは、担任の教師の指導力向上なしには扱えない。しかしだからこそ、絵本を読む練習を通して自身の英語力向上を図ったり、また、児童との対話を通して、授業の中での英語でのやり取りに慣れていっていきべきである。

所沢市では、各小学校に絵本が15冊ずつ配布されている。この絵本をそれぞれの小学校で、児童の、また、教師の力となるように活用していきたい。

#### 参考文献

Bill Martin(1997)『Polar bear, Polar bear, what do you hear?』 Priddy Bicknell Books

Eric Carle(1994)『THE VERY HUNGRY CATERPILLAR』 Philomel Books

Michael Rosen(1995)『We're going on a bear hunt』 Candlewick

Nadine Bernard Westcott(1992)『Peanut Butter and Jelly』 Puffin Books

Nick Sharratt(2006)『Ketchup on your cornflakes』 Scholastic

文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説 外国語編』